

One / フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド

(成長型 / 隔月決算・予想分配金提示型)

追加型投信 / 内外 / 株式

Blue chip

足もとのパフォーマンスと今後の運用方針について

平素は、「One / フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド(成長型 / 隔月決算・予想分配金提示型)」(以下、各ファンドということがあります。)をご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。当資料では、運用責任者からのメッセージと足もとの運用状況等についてご報告いたします。

運用責任者からのメッセージ

金融市場ではインフレが根強く、中東情勢や米中関係など、地政学リスクも高まっています。しかしながら、こうした環境であっても、持続的な成長が期待できる企業は世界中に多数存在します。企業調査を通じて、逆風の事業環境においてもコストをうまく管理するなどの施策により、収益性が改善している企業が確認されています。

AI(人工知能)は、電子機器や自動車などのアプリケーションに幅広く活用され、関連する半導体企業には今後も高い成長が期待されます。ウェルビーイング(人々の満足度)も高い成長分野であり、ヘルスケア企業、アウトドアやスポーツ関連の企業にも高い成長が見込まれます。

経済環境が目まぐるしく変わるなか、持続的な成長を達成するブルーチップ・グロース企業は事業環境の変化に順応しています。経験と実行力ある経営陣、強固な財務基盤、優れたビジネスモデルを備える企業には、市場をリードして高い成長を実現する力があると考えます。

市場の先行きは不透明ですが、中長期的に大きく成長する企業を見極める絶好の機会と捉えています。引き続き個別銘柄の調査分析を徹底して成長力の高い企業を選別し、長期的な運用成果を目指します。



フィデリティ・インバースメンツ
ポートフォリオ・マネジャー

Sonu Kalra ソヌ・カルラ

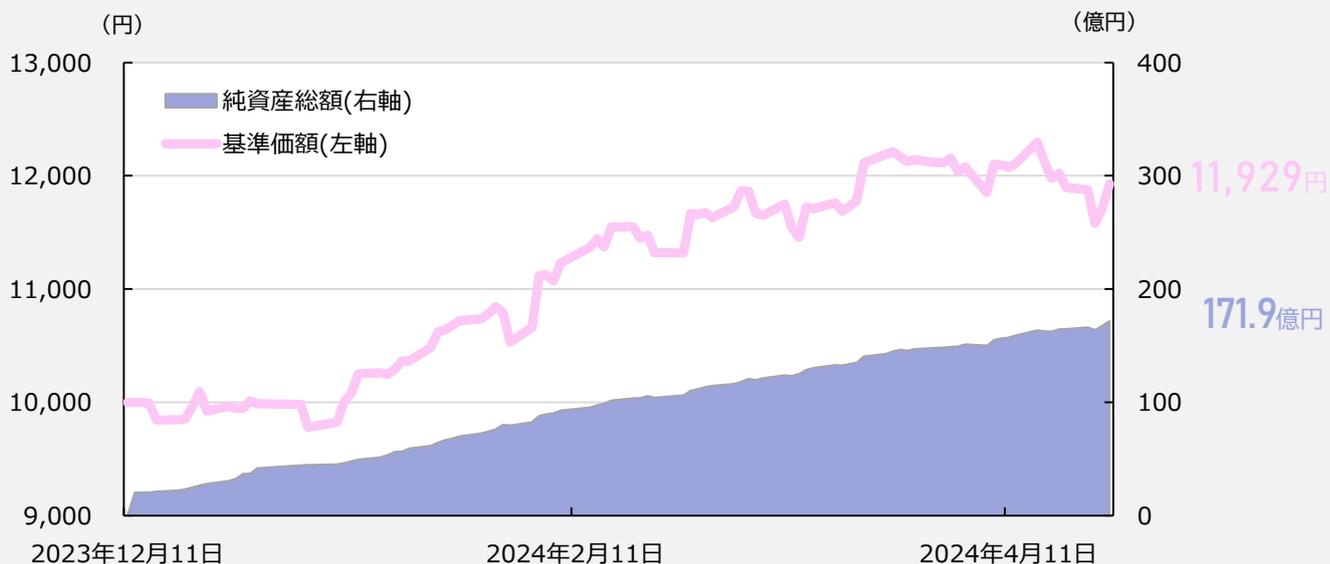
※上記は作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。運用方針・考え等は当資料作成時点におけるものであり、投資環境の変化等により予告なく変更される場合があります。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

One/フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド(成長型)は2023年12月12日に設定・運用を開始しました(当初設定金額:20.6億円)。2024年4月25日時点での純資産総額は171.9億円となっています。

運用実績



※期間:2023年12月11日(設定日前営業日)~2024年4月25日(日次)
 ※基準価額は設定日前営業日を10,000円として計算しています。
 ※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後の価額です。換金時の費用・税金などは考慮していません。
 ※2024年4月25日時点で分配金実績はありません。

騰落率

1か月	3か月	設定来
-2.1%	11.7%	19.3%

※基準日:2024年4月25日
 ※騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。
 ※各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本をもとに計算しています。

分配金実績

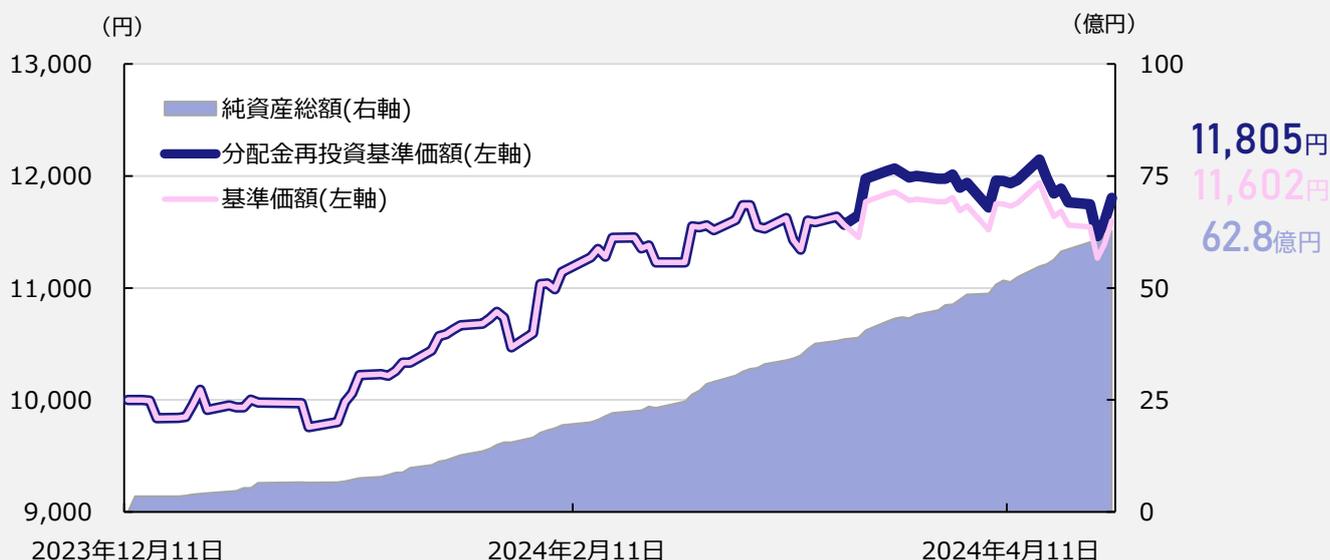
※初回決算が2024年5月20日のため、作成時点で分配金実績はありません。



※上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

One/フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド(隔月決算・予想分配金提示型)は2023年12月12日に設定・運用を開始しました(当初設定金額:3.5億円)。2024年4月25日時点での純資産総額は62.8億円となっています。

運用実績



※期間:2023年12月11日(設定日前営業日)~2024年4月25日(日次)
 ※基準価額は設定日前営業日を10,000円として計算しています。
 ※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後の価額です。換金時の費用・税金などは考慮していません。
 ※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を当ファンドに再投資したとみなして計算した理論上のものであり、実際の基準価額とは異なります。

騰落率

1か月	3か月	設定来
-2.0%	11.1%	18.0%

※基準日:2024年4月25日
 ※騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出しており、実際の投資家利回りとは異なります。
 ※各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本をもとに計算しています。

分配金実績

決算期	第1期(2024年3月21日)
分配金額	200円

※分配金実績は、1万口当たりの税引前分配金を表示しています。
 ※運用状況によっては分配金が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。上記は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。



※上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

フィデリティ・ブルーチップ・グロース・マザーファンドの株式組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	比率	フィデリティの評価ポイント
1	アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	9.1%	オンライン小売り大手。小売りウェブサイト「Amazon」を世界中で展開するほか、サブスクリプション(継続課金)サービス「Amazonプライム」や電子書籍「kindle」等も提供。近年はクラウドプラットフォーム「AWS」が成長をけん引。
2	エヌビディア	情報技術	9.1%	半導体メーカー大手。コンピューターの画像描写や演算を行う画像処理半導体(GPU)等を開発。AI(人工知能)をサポートする技術において、競争を引き離す存在。
3	マイクロソフト	情報技術	9.0%	ソフトウェア大手。「Windows」や「Office」など圧倒的な世界シェアを誇る商品やサービスを多数展開し、あらゆる事業で高い収益性を誇る。近年は、クラウドサービス「アジュール」が成長をけん引。
4	アップル	情報技術	6.7%	IT機器大手。スマートフォン「iPhone」やパソコン「Mac」などのデジタル製品をはじめ、関連するソフトウェア等を開発・販売。圧倒的なブランド力を背景に、強固な顧客基盤を持つ。
5	メタ・プラットフォームズ	コミュニケーション・サービス	6.1%	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)大手。「Facebook」や「Instagram」、「WhatsApp」などのサービスを開発・提供。次世代を見据え、メタバース(仮想空間)事業にも注力中。
6	アルファベット(クラスA)	コミュニケーション・サービス	5.8%	大手インターネット関連企業。検索サイト「Google」を中心に多様なサービスを展開。AI事業やクラウドサービス「グーグルクラウド」等の成長期待も高い。
7	イーライリリー	ヘルスケア	2.9%	糖尿病治療薬をはじめ、病院等で処方される医薬品に特化した大手製薬会社。インスリンの製剤化のパイオニアであるなど、研究開発力にも強みを持つ。
8	ウーバー・テクノロジーズ	資本財・サービス	2.1%	配車サービス大手。世界各国でアプリを利用した配車サービスを展開するほか、フードデリバリーサービスや電動スクーター・EV(電気自動車)のレンタルサービス等も手掛ける。
9	ネットフリックス	コミュニケーション・サービス	2.1%	オンラインストリーミングサービス大手。世界中で映像ストリーミング配信事業を展開する。映画やテレビ作品の配信だけでなく、オリジナル作品の制作・配信等も手掛ける。
10	ユナイテッドヘルス・グループ	ヘルスケア	1.7%	医療機関との幅広いネットワーク基盤を備える医療保険会社大手。近年の医療費削減に対応し、美容関連にも業容を拡大。処方箋薬局などの買収にも積極的。

※2024年3月末時点

※上表は、個別銘柄(企業)を紹介することを趣旨としているため、ETF(上場投資信託)は除いています。

※業種はGICS(世界産業分類基準)の基準に基づいています。

※比率は純資産総額に対する割合です。

※株式等組入銘柄数はETF(上場投資信託)等を含みます。

出所:フィデリティ投信の情報をもとにアセットマネジメントOne作成

株式等組入銘柄数:227銘柄

※上記は過去の運用実績、または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、当該個別銘柄の揭示は、取引の推奨を目的としたものではありません。今後も上記銘柄の保有を継続するとは限りません。

運用責任者が注目しているポイント

“生成AI”をどのように捉えているのか

テクノロジーは過去20年間で私たちの生活、仕事、コミュニケーションの方法に革命をもたらしました。こうした革命は、AIの出現によって今後も続くと考えています。

2022年後半にチャットGPTがローンチされたことにより、消費者と投資家はAIの力と可能性を理解し始めました。これは1990年代に検索エンジン「Netscape」がインターネットの普及に与えた影響と同等のインパクトがあると考えています。

私たちはブルーチップ・グロース戦略を運用する際、市場に成長率や成長持続性を過小評価されている有望企業や持続可能なビジネスモデルで平均を上回る収益成長の可能性があると考える大型株にフォーカスした投資を行っています。特に、生成AI関連銘柄の中で投資ウエイトが最大のものは、この技術の推進に不可欠な半導体、つまりマイクロチップの製造に関わる銘柄です。その中でも、AIモデルを強化するGPUと関連ソフトウェアのリーダーであるエヌビディアと、競合他社であるマーベル・テクノロジー・グループに注目しています。AIチップの需要が増えることにより、両社とも今後数年間で大幅に収益が増加すると予想しています。

さらに、アマゾン・ドット・コム、アルファベット、メタ・プラットフォームズ、アップル、マイクロソフトなどのAI技術革新の最前線にある巨大ハイテク関連企業へも積極的に投資しています。これらの企業は長年にわたりAIを採用しており、最近も各企業がテクノロジーへの多額の投資を行っています。たとえば、アルファベットは2022年の初めに、AIを活用してGoogle検索機能や広告などのアプリケーションを改善したほか、独自のチャットボット「Bard」をリリースしました。メタ・プラットフォームズもAIインフラストラクチャーを構築するために多額の投資を行っています。

アルファベットやエアビーアンドビー、ウーバー・テクノロジーズなどの企業は、インターネットやスマートフォンが普及する前には存在しなかったでしょう。ましてや想像さえできなかったであろうことを、今一度考える価値があるのではないのでしょうか。これらを考慮すると、生成AIとその進化する使用法が新しい企業やビジネスを生み出し、その結果さらに多くの投資機会が生まれる可能性が非常に高いと考えています。

出所：フィデリティ投信の情報をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、当該個別銘柄の提示は、取引の推奨を目的としたものではありません。また、各ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

01 主として、米国を中心に世界(日本を含みます。)の金融商品取引所に上場(これに準ずると委託会社が判断したものを含みます。*1)されている優良企業の株式に実質的に投資を行い、長期的な値上がり益を獲得することをめざします。

*1 米国の店頭市場登録の銘柄を組入れることがあります。

✦以下の投資信託証券を投資対象とするファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。

- フィデリティ・ブルーチップ・グロース・ファンド(適格機関投資家専用)*2 (以下「ブルーチップファンド」といいます。)
- *2「フィデリティ・ブルーチップ・グロース・ファンド(適格機関投資家専用)」は「フィデリティ・ブルーチップ・グロース・マザーファンド受益証券」を主要投資対象とするファミリーファンド方式により運用を行います。
- DIAMマナーマザーファンド受益証券

✦各投資信託証券への投資割合は、資金動向や市況動向等を勘案して決定するものとし、ブルーチップファンドの組入比率は、原則として高位を維持します。

✦実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

02 ブルーチップファンドの実質的な運用は、フィデリティ投信株式会社*3が行います。

✦フィデリティ投信株式会社*3は、運用の指図に関する権限の一部(株式等の投資判断の一部)をファイアム・エルエルシー*4に委託します。

*3 フィデリティ投信株式会社は、独立系資産運用グループのフィデリティ・インターナショナルの一員です。

*4 ファイアム・エルエルシーは、企業年金、公的年金、基金、財団、中央銀行、政府系ファンド、保険会社を含む世界各国の機関投資家を対象とした資産運用サービスに特化しています。ファイアム・エルエルシーはフィデリティ・インベストメンツの一員です。なお、フィデリティ・インターナショナルはフィデリティ・インベストメンツの国際投資部門として1969年に設立しました。1980年に米国の組織から独立し、現在は経営陣と創業家が主要株主となっています。

03 「成長型」と「隔月決算・予想分配金提示型」の2つのファンドからご選択いただけます。

成長型	原則として、毎年5月および11月の各20日(休業日の場合は翌営業日)の決算日に収益の分配を行います。
隔月決算・ 予想分配金提示型	原則として、毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各20日(休業日の場合は翌営業日)の決算日に収益の分配を行います。

< 隔月決算・予想分配金提示型の分配金について >

各決算期末の前営業日の基準価額*に応じて、原則として、以下の金額の分配をめざします。

*基準価額は、1万口当たりとし、ファンド設定来の支払済み分配金(税引前)を含みません。

各決算期末の前営業日の基準価額	予想分配金額(1万口当たり、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上12,000円未満	200円
12,000円以上13,000円未満	300円
13,000円以上14,000円未満	400円
14,000円以上	500円

※分配対象額が少額の場合、各決算期末の前営業日から当該決算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記と異なる分配金額となることや分配を行わないことがあります。

※各決算期末の前営業日の基準価額水準に応じて、予想分配金額は変動します。基準価額が上記の一定水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた予想分配金額が次期決算以降も継続されるというものではありません。

※分配を行うことにより基準価額は下落します。このため、次期決算以降の分配金額は変動する場合があります。また、基準価額が下落し続ける場面においても、上記の表に基づく分配をめざします。この場合、分配を行うことにより基準価額がさらに下落します。

※上記の表は、基準価額水準における予想分配金額を示すことを目的としています。分配金額は予想に基づくものであり、将来の運用の成果を示唆および保証するものではありません。

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配を約束するものではありません。また、分配金が支払われない場合もあります。

※投資者ごとに購入金額が異なるため、基準価額が10,000円を超えて支払われた分配金であっても、分配金の一部または全部が実質的に元本の払い戻しに相当する場合があります。

※投資信託において分配金を受け取ることは、将来、運用する資金の減少につながります。その結果、分配後に市況が下落した場合には、実質的に利益確定や損失回避などの効果が期待されますが、逆に上昇した場合には、運用の複利効果が抑制されることにつながります。また分配金額が多いほど、実質的に利益確定や損失回避などの効果が複利効果の抑制に大きく影響します。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて値動きのある有価証券等(実質的に投資する外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

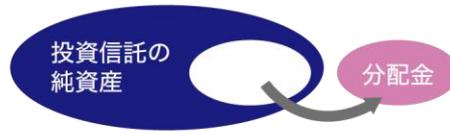
基準価額の変動要因

<p>株価変動リスク</p>	<p>株式の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、発行企業の業績・経営状況の変化、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式市場や各ファンドが実質的に投資する企業の株価が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。また、各ファンドは、実質的に個別銘柄の選択による投資を行うため、株式市場全体の動向から乖離することがあり、株式市場が上昇する場合でも基準価額は下落する場合があります。</p>
<p>為替変動リスク</p>	<p>為替相場は、各国の政治情勢、経済状況等の様々な要因により変動し、外貨建資産の円換算価格に影響をおよぼします。各ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には、実質保有外貨建資産が現地通貨ベースで値上がりした場合でも基準価額が下落する可能性があります。</p>
<p>信用リスク</p>	<p>有価証券等の価格は、その発行体に債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。各ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、また、こうした状況に陥ると予想される場合、信用格付けが格下げされた場合等には、株式の価格が下落したり、その価値がなくなることがあり、基準価額が下落する要因となります。</p>
<p>流動性リスク</p>	<p>有価証券等を売却または取得する際に市場規模や取引量、取引規制等により、その取引価格が影響を受ける場合があります。一般に市場規模が小さい場合や取引量が少ない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなることがあり、基準価額に影響をおよぼす要因となります。</p>
<p>カントリーリスク</p>	<p>投資対象国・地域の政治経済情勢、通貨規制、資本規制、税制、また取引規制等の要因によって資産価格や通貨価値が大きく変動する場合があります。海外に投資する場合には、これらの影響を受け、基準価額が下落する要因となります。</p>
<p>特定の投資信託証券に投資するリスク</p>	<p>各ファンドが実質的に組入れる投資信託証券における運用会社の運用の巧拙が、各ファンドの運用成果に大きな影響をおよぼします。</p>

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

- ◆ 投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

投資信託から分配金が支払われるイメージ

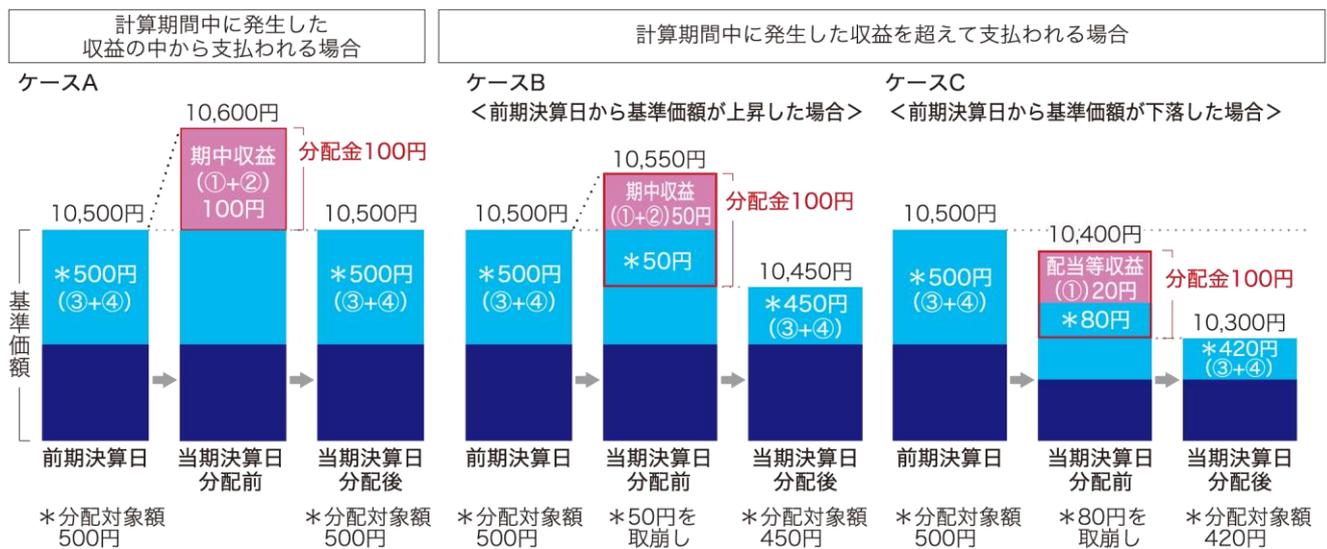


- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

分配金額と基準価額の関係(イメージ)

分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

①配当等収益(経費控除後)、②有価証券売買益・評価益(経費控除後)、③分配準備積立金、④収益調整金



上図のそれぞれのケースにおいて、前期決算日から当期決算日まで保有した場合の損益を見ると、次の通りとなります。

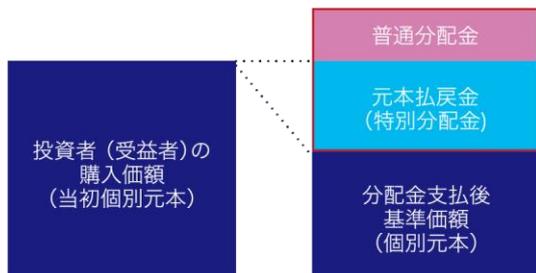
ケースA: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差0円 = 100円
 ケースB: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲50円 = 50円
 ケースC: 分配金受取額100円 + 当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲200円 = ▲100円

- A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

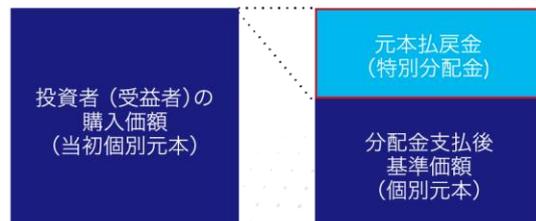
- ◆ 投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は、非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

購入単位	販売会社が定める単位(当初元本1口=1円)
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日に該当する日には、購入・換金のお申込みの受付を行いません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	投資を行う投資信託証券の取得申込みの停止、投資を行った投資信託証券の換金停止、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	無期限(2023年12月12日設定)
繰上償還	各ファンドが主要投資対象とするブルーチップファンドが存続しないこととなる場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)させます。各ファンドにおいて純資産総額が30億円を下回ることとなった場合等には、償還することがあります。
決算日	<成長型> 毎年5月、11月の各20日(休業日の場合は翌営業日) <隔月決算・予想分配金提示型> 毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	<成長型> 年2回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 <隔月決算・予想分配金提示型> 年6回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。 詳細は販売会社までお問い合わせください。
課税関係	各ファンドは課税上は株式投資信託として取り扱われます。原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 各ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。 ※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。

詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入時	購入時手数料	購入価額に 3.3%(税抜3.0%) を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。購入時手数料は、商品や投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続き等にかかる費用の対価として、販売会社に支払われます。 ※くわしくは販売会社にお問い合わせください。												
	換金時手数料	ありません。												
ご換金時	信託財産留保額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に 0.3% の率を乗じて得た額とします。												
	運用管理費用 (信託報酬)	各ファンド	<p>ファンドの日々の純資産総額に対して年率1.122%(税抜1.02%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支払先</th> <th>内訳(税抜)</th> <th>主な役務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>年率0.35%</td> <td>信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年率0.65%</td> <td>購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年率0.02%</td> <td>運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価</td> </tr> </tbody> </table>	支払先	内訳(税抜)	主な役務	委託会社	年率0.35%	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価	販売会社	年率0.65%	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価	受託会社	年率0.02%
支払先	内訳(税抜)	主な役務												
委託会社	年率0.35%	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価												
販売会社	年率0.65%	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価												
受託会社	年率0.02%	運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価												
保有期間中 (信託財産から間接的にご負担いただきます。)	投資対象とする 国内籍私募投資信託	ブルーチップファンドの純資産総額に対して年率0.715%(税抜0.65%)												
	実質的な負担	各ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.837%(税抜1.67%) 概算 ※上記は各ファンドが投資対象とするブルーチップファンドを高位に組み入れた状態を想定しています。												
その他の 費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、外国での資産の保管等に要する費用、監査費用等が信託財産から支払われます。 ※投資対象とするブルーチップファンドにおいては、上記以外にもその他の費用・手数料等が別途かかる場合があります。 ※その他の費用・手数料については、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。													

※上記手数料等の合計額等については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

投資信託ご購入の注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡す投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- 各ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

著作権等

世界産業分類基準(GICS)は、MSCI Inc(. MSCI)およびStandard & Poor's Financial Services LLC(S&P)により開発された、MSCIおよびS&Pの独占的権利およびサービスマークであり、アセットマネジメントOne株式会社に対し、その使用が許諾されたものです。MSCI、S&P、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者のいずれも、かかる基準および分類(並びにこれらの使用から得られる結果)に関し、明示黙示を問わず、一切の表明保証をなさず、これらの当事者は、かかる基準および分類に関し、その新規性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性についての一切の保証を、ここに明示的に排除します。上記のいずれをも制限することなく、MSCI、S&P、それらの関係会社、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者は、いかなる場合においても、直接、間接、特別、懲罰的、派生的損害その他一切の損害(逸失利益を含みます。)につき、かかる損害の可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負うものではありません。

委託会社その他関係法人の概要

委託会社	アセットマネジメントOne株式会社	信託財産の運用指図等を行います。
受託会社	みずほ信託銀行株式会社	信託財産の保管・管理業務等を行います。
販売会社	募集の取扱いおよび販売、投資信託説明書(目論見書)・運用報告書の交付、収益分配金の再投資、収益分配金、一部解約金および償還金の支払いに関する事務等を行います。	

照会先

アセットマネジメントOne株式会社 |  コールセンター **0120-104-694** |  ホームページアドレス
受付時間: 営業日の午前9時~午後5時 | <https://www.am-one.co.jp/>

販売会社(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

○印は協会への加入を意味します。

2024年4月26日時点

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
株式会社中国銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号	○		○		
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1771号	○				※1
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号	○			○	
中銀証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第6号	○				
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第75号	○				
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1977号	○				
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第181号	○	○			
永和証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第5号	○				※2

- その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。
- 販売会社によっては、一部ファンドのみのお取り扱いとなります。くわしくは販売会社にお問い合わせください。

<備考欄について>

※1めぶき証券は成長型のみのお取扱い

※2永和証券は5月7日より成長型のお取扱い開始

(原則、金融機関コード順)